日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

2022（令和 4）年度 第 1 回運営委員会　次第

Ⅰ．日　時　　2022（令和 4）年 4 月 22 日（金）16：00～17：00

Ⅱ．方　法　　Teams による Web 会議

Ⅲ．報告事項

１．キックオフセミナーについて　【資料１】
２．2021（令和 3）年度第 2 回連絡協議会について　【資料２】
３．2022（令和 4）年度予算について　【資料３】
４．2022（令和 4）年度会議の開催日程について　【資料４】
５．2021（令和 3）年度実績報告の作成について　【資料５】
６．文部科学省科学研究費補助金の研究者登録等について　【資料６】
７．研究所専用アドレス（t-shibusawa＠jrcdmri.redcross.ac.jp）の付与について
８．その他

Ⅳ．協議事項

１．2021（令和 3）年度決算（案）について　【資料７】
２．研究員の推薦と承認について　【資料８】
３．災害救護研究所の体制：情報企画連携室の設置について　【資料９】
４．災害救護研究所の体制：（仮称）部門カンファレンスについて　【資料 10】
５．防災減災連携研究ハブへの参加について　【資料 11】
６．その他

Ⅵ．次回　第 2 回運営委員会

2022（令和 4）年 8 月 26 日（金）16:00～17:00　（予定）

資料No. 1

キックオフセミナー　アンケート結果

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

開催日：2022年3月26日

現地参加者　32名／リモート参加者　249名　　アンケート回答数51件

参加者数合計　281名　　アンケート回答率　18%

Ｑ１．職業について

医療職	21名	41%
会社員	18名	35%
教員	6名	12%
その他	6名	12%

薬剤師、日赤東京都支部災害救護ボランティア、日赤支部職員、赤十字職員、本業は大学教員もどきだが赤十字救護ボランティア、無職

Ｑ２．今回のセミナーをどのように知りましたか。（複数選択可）

施設でチラシを見て	27名	51%
友人、知人からセミナーのことを聞いて	7名	13%
大学のホームページ	4名	8%
その他	15名	28%

支部からの情報共有、日赤東京都支部災害救護ボランティア宛のメール、日赤からの案内、東京都支部からのメール、東京新聞の記事、所属ボランティア団体から案内、富田副社長とのご面談を通じて

	Ｑ３．今回のセミナーの内容に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
1	ためになりました。9部門の部長に、話が聞けて良かった。
2	大変勉強になりました。是非都度研究成果を公開いただき、活用させていただけますと幸いです。また研究員には若手の登用も今後のために有効だと思います。良いお日柄のなか、キックオフセミナーの開催おめでとうございます。今後の発展を祈念しております。
3	これまでの実災害での経験を元に作られてきた救護活動が、災害や被災者支援を経験したことがない世代にまで体系化されて伝えることは、将来の財産になると思いました。また、実績と反省を元に学問とすることで、今後100年に渡って防災・減災、救護の理解と技術が深まっていくと感じました。本日はありがとうございました。
4	大変、興味深く有益なセミナーでした。とても勉強になりました。ありがとうございました。いくつかの講演において、手元のハンドアウトにない資料で、プレゼンのスライドがスクリーンが遠くて良く見えないところもありましたので、事後でも講演の映像のアーカイブや資料のダウンロードを案内いただけると大変助かります。研究所の今後のご発展・ご活躍を期待しております。
5	今後の情報提供も楽しみにしております。
6	災害救護活動が体系的に進められるよう、臨床からも取り組んでいきたいと感じました。ありがとうございました。
7	実際の救護場面で円滑な活動につながるよう日々できることをしていけたらと思いました。
8	災害について今まで知らなかったこと今後勉強しようと思ったこと様々な事を知ることが出来非常に有意義な時間でした。
9	研究所の具体的な活動がわかりにくかった。第二回のセミナーで是非ともどういった活動をして、今後どのように進んでいくのかを教えていただきたい。
10	キックオフミーティングおめでとうございます。今後の情報公開を期待いたします。
11	様々な分野からのお話が聞けてとても勉強になりました。シンポジウムの時間が足りず残念に感じました。また次の機会も楽しみにしています。
12	災害救護に関する概況が学べました。初回であり、歴史的背景を述べられる先生方が多かった印象です。更に踏み込んだ研究シンポジウムが今後開催されることを期待します。オンラインという環境であるにも関わらず、スムーズかつ飽きさせない進行で大変興味深く拝聴しました。企画いただきありがとうございました。
13	9部門が発展できることを期待します。
14	様々な視点からのご講演があり、災害、防災を含めて多種多様な医療者の役割を考えることができました。ありがとうございました。
15	救護活動について、研究的視点からより良いものにしていく活動を始めるということがわかりました。日本は災害大国であるのに、避難所の環境や防災がなかなか浸透しづらいと感じているため、このように活動を推進することはとても意味があると思います。質問にもあったように、行政の方たちの意見も取り入れながら進めるとより良いと思いました。ありがとうございました。
16	災害救護研究所の開設、おめでとうございます。今回、キックオフイベントとして、様々な立場から実際のご活動や今後の展望についてご教示いただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。

	Ｑ３．今回のセミナーの内容に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
17	今後の発展に期待しています。お疲れ様でした。
18	とても充実した内容であったと思います。今後の赤十字を含む日本の災害救護に活かせる研究成果が積み重ねていかれることを期待します。赤十字が災害救護の領域で、今後ともトップランナーとして頑張っていただきたいと思います。看護大学との連携、素晴らしいと思います。
19	様々な分野の災害に関わる方の話を聞かせてもらえて、いろいろな団体が災害支援されてることを知りました。これからもっと赤十字活動を広く知ってもらうことが、支援団体が増えて行く事に繋がり、研究所が大きな影響をもたらすのかもしれないと思いました。
20	災害救護研究所の関係の先生方、そして赤十字以外の先生方の貴重なご講演を聴けて本当に良かったと思います。後半のシンポジウム、質疑応答も活発なご意見を聞け、山本先生の周囲を和ませる司会進行、楽しく学ばせて頂きました。ありがとうございました。今後もなんらかの形で、災害救護研究所の活動に参加出来ればと思います。次年度も楽しみにしております。よろしくお願いします。
21	多発する世界の災害等のデータ分析、対策の構築、実践の状況や取り組みと研究所への期待がわかった。定期的、また、トピックス的な情報提供を期待したい
22	貴重なご講演、誠にありがとうございました。Webにてご質問させて頂きましたが、真意を正確にお伝えすることができず、貴重なお時間を無駄にしてしまいまして、誠に申し訳ございません。質問としましては以下になります。若輩者であり、甚だ恐縮ではございますが、一つご質問させて頂きます。令和の時代にて解決すべき災害医療保健福祉領域の問題の一つに、災害関連死があると考えております。その課題解決の一つの手法として、明城先生のご講演の中で出ました被災者支援コーディネーションの確立があると思います。災害医療コーディネートという支援ベーストではなく、被災者支援コーディネートという「人間中心」の、「被災者中心」のというお考えがあってのことだと推察させて頂きました。そこで、シンポジストの皆様方が考えられる災害保健医療福祉分野での被災者支援コーディネーションとは何なのか、先生方のお考えを是非お聞かせ頂きたいと思います。というものでした。今後とも、災害救護研究所様の研究活動を参考にさせて頂きたいと考えております。貴重なお時間を誠にありがとうございました。
23	看護師　助産師をしております　災害が増加　激甚化する中　改めて課題が明確になりました今まで先輩方がなされた事を大切に　これからの世代の方へも引き継いでいきたいと思いました。研究活動の大切さも実感いたしました。医療職としてだけでなく地域で過ごす住民として自分に何ができるか平時から考え取り組んでまいります。世界からみた日本も　感じることができました今日参加させていただき　本当によかったですありがとうございました。
24	キックオフセミナーでしたが、とても興味深い内容でした。
25	日本赤十字社の職員であっても、災害救護研究所について情報を得ていないと考えます。今回のセミナーは、当該研究所の位置付けとこれからを知り得る機会となりました。大変参考になったとともに、学びになりました。ありがとうございました。
26	災害専門家の育成、経験のデータ化と災害医学の発展、期待しています。
27	災害救護研究所が果たす役割、期待される役割などを知ることができた。防災、減災などに向けたデータの蓄積も大切だと認識した。

	Ｑ３．今回のセミナーの内容に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
28	日本赤十字看護大学附属　災害救護研究所のキックオフについて知ることができて良かったです。ボランティアとして平時からの訓練等、医療の後方支援で連携が出来ることを望みます。
29	支部職員にとって、この研究所発足はとても喜ばしいものです。シンポジウムでは、医療に偏ってしまった感が否めませんが、今後、防災減災やボランティアなど日赤がかかわる幅広い分野で研究が進み、その門戸が現場まで広く開かれることを期待しています。研究を通じて、今後、日赤（支部）が担っていく役割や方向性も明確になっていくのだとも思います。
30	今回、国内外における災害救護に関する貴重なお話を頂き感謝申し上げます。近年の災害が増加、複雑化するなかで、赤十字だけでなく他部門の方々との連携は書かせないものと思います。国内外での救護経験があることや、ウクライナ侵攻など国際人道法違反となる行為が現在起こっていることなど、SDGSの誰一人取り残さないという目標に向かい、自分も精進していかなくてはならないと強く感じました。今後予測されている災害に必要な備えをより詳しく、レジェンドの部門長やシンポジストの方々に経験談等含めお聞きしたいと思いました。次回は、今回の内容のその後と、貴研究所の経過報告も伺いたいです。合わせて、研究所の組織図など、どのような方々や組織が関わっていらっしゃるかを知りたいです。本日は、年度末のお忙しいなか開催していただき御礼申し上げます。
31	日赤だけでなく多組織との繋がりが、今後の発展のカギを握ると感じました。赤十字は行動する組織ですね。災害対応のパイオニア・専門家の皆さまのシンポジウムは面白く有意義でした。ありがとうございます。
32	災害救護の経緯などについて学ぶ良い機会でした。
33	研究所設立の意図が理解できた。具体的に災害に関して赤十字が持つノウハウをデータ化して公表していく必要性を痛感した。しかし、具体的に研究となると災害だけに難しい面があると思う。実践報告レベルの集積を重ねていくことから始めることも大切だと思う。　また、WHOで発行されたガイドラインの翻訳版を早く見たいと思った。
34	大変勉強になりました。ありがとうございました。動画を日赤職員に是非公開して下さい。赤十字が災害医療を使命としている事を学んで欲しいためです。自分は研修会のタスクとして多くの先輩から直接学ぶことができた事、本当に感謝しております。ネット時代です。まずは情報共有することが重要だと思います。　シンポジウムの意見にも記入しましたが災害関連死検討委員会に研究所メンバーの参加希望です　3 救命救急士を日赤救護班のロジに　　日赤医学　69(1)265-265(2017-09-01)　4 研究のアイデア　動画で記録できるエプソンのスマートグラスのようなデバイスを救護班長に　5 日赤病院の組織改革に心理的安全性のチーミングを導入して下さい。勝見先生はまさにそのリーダーでした。
35	大変貴重なご講演をいただきありがとうございました。日本赤十字社の知見を結集し今後の災害救護のための発信に向けた強い意志を実感しました。 研究成果を期待します。
36	災害救護研究所の創設により､これからの災害救護への関心や実務に更に役立つ事を期待致します。
37	キックオフだったので、研究所としての目標や目的が明確に説明され、それに対する感想や意見や期待などを吸い上げるような流れだったら良かったかなと感じた。

	Ｑ３．今回のセミナーの内容に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
38	日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の設置、昨日のキックオフセミナー開催、おめでとうございます。意見・感想を次に記します。9つの部門長からのメッセージにはもっと時間を掛けてもよいのではと思いました。（もっと聞きたかったです。）６名の講師の皆さんからの発表、とても惹きつけられました。山本保博先生座長の意見交換・質疑応答については、時間に追われる感じで落ち着けなかったです。会場内からの意見や質問を求められるも、中途半端に終わることが不安で手を挙げることが出来ませんでした。※来年度の第２回シンポジウムでは是非時間に余裕を持ったプログラムにしてもらえると幸いです。WEB参加の方々からのチャットによる質問・意見がどんどん（座長席の）富田所長のところへ届き、それにより最後のコマに活気が出たこと、さらにWEB参加の方々にとっての会場との一体感が得られたのではないかと想像し、（会場参加者の一人として）温かい気持ちになりました。（日赤医療センターの丸山先生の労をねぎらいたいと思います。）※お尋ねをできなかったことをここに記します。・災害救護活動では、よく「ロジスティックス」という言葉が出てきます。この機能は、９つの部門を横串を通すような形で研究が行われるのでしょうか？　ありがとうございました。
39	「災害救護研究所DMRI」が設置されたことで、災害救護に関する体系的な知識・知見・技術の学術的な集約に大いに期待しております。また、研究成果の知識・知見・技術を単に日赤関係機関内部だけで利用するのではなく、可能な限り幅広く関係機関へ社会還元して頂くことを期待しております。そこで、質問が以下の2点あります。石巻赤十字病院内に設置されている「災害医療ACT研究所」との研究・研修等における活動の連携についてお尋ねします。・災害時の医療支援に関する人材の教育・育成において「ATC研」と「DMRI研」との研究・研修等についての連携はどのようなお考えなのか教えてください。「日赤看護大学付属災害救護研究所DMRI」の成果発表についてお尋ねします。・DMRI研の活動において、その研究・研修成果を可能な範囲で一般市民を含む関係機関へ「成果発表会」という形での公開して頂くことを期待しておりますが、その可能性についてはどのようなお考えなのか教えてください。定期的な「成果発表会」があれば、研究等の進捗状況も理解できますし、研究者や研修者の皆さんのステップアップ（励み）にもなると考えます。
40	1.次回の案内をください。2.被災者、避難所を原則としてください。3.ホームページを作ってください。
41	赤十字内外に広く公開されているのが良い
42	これからに期待します。
43	大変著名な先生方の講演をお聞きさせて頂き、大いに参考となりました。またそもそもの災害救護研究所の設立の意義や目的と周りからの期待を把握させて頂く事ができ有意義でした。我々も災害のソリューションをご提案させて頂く中、ニーズに即したものに、よりアップグレードをはかりたいと思います。

資料No.２

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

令和３年度 第２回連絡協議会　次第

Ⅰ．日　時　　令和４年３月 15 日（火）16：00～

Ⅱ．方　法　　Teams による Web 会議

Ⅲ．報告事項

１．令和３年度研究所の活動報告について　【資料１】
２．キックオフセミナーについて　【資料２】
３．その他

Ⅳ．協議事項

１．日本赤十字看護大学附属災害救護研究所組織について　【資料３】
２．令和４年度研究計画・予算案について　【資料４】
３．連絡協議会、運営委員会の開催日程について　【資料５】
４．その他

Ⅴ．次回　令和４年度 第１回連絡協議会　令和４年５月 20 日（金）16：00～

令和4年度　日本赤十字看護大学附属災害救護研究所　研究助成申請額・決定額一覧　（案）

資料No.３

2022（令和4）年4月20日現在

No.	部門	部門長		研究テーマ・概要・目的	（参考）令和3年度助成額	申請研究経費（円）		助成決定額(円)（案）	助成額決定の根拠
1	01災害救護部門	中野　　実	テーマ	災害救護における救護班の役割検討　～日赤救護活動に係る教育・育成の支援～	1,500,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	基準額（1,367,000円）以下なので満額助成
2	02国際医療救援部門 05国際救援部門	中出　雅治 佐藤　展章	テーマ	次世代の医療救護施設/機材の開発　（国際救援部門との共同研究）	5,000,000	6,200,000	6,200,000	4,287,000	基準額1,367,000円×2部門+777,500円×2 （端数2,000円減額）
3	03災害看護部門	内木　美恵	テーマ	東日本大震災における医療救護班での看護師の看護実践	1,500,000	810,000	810,000	810,000	基準額（1,367,000円）以下なので満額助成
4	04防災減災部門	白土　直樹	テーマ	アメリカ赤十字社のICS（Incident Command System）に関する基礎的研究	500,000	1,315,000	1,315,000	1,315,000	基準額（1,367,000円）以下なので満額助成
5	06心理社会的支援部門	森光　玲雄	テーマ	①サイコロジカル・ファーストエイド（Psychological First Aid；以下PFA）の普及	2,000,000	300,000	3,602,000	2,144,000	基準額(1,367,000円)+777,500円 （端数800円減額）
				②COVID-19パンデミック下における医療従事者のメンタルヘルス調査		360,000			
				③COVID-19パンデミック下の医療機関におけるスタッフへの精神保健および心理社会的支援の実態調査		500,000			
				④宮城県における日赤救護班要員等のサポートシステムの構築と評価		945,000			
				⑤日本赤十字社の国際緊急救援活動における災害時心理社会的支援の変革-EURでの心理社会的支援		1,497,000			
6	07感染症部門	古宮　伸洋	テーマ	被災地における日赤医療活動の感染対策能力強化に関する研究	500,000	300,000	300,000	300,000	基準額（1,367,000円）以下なので満額助成
7	08災害ボランティア部門	安江　一	テーマ	災害時における赤十字ボランティアの特徴を活かした活動と活動に必要な環境整備について	500,000	302,000	302,000	300,000	基準額（1,367,000円）以下なので満額助成
8	09災害救援技術部門	曽篠　恭裕	テーマ	①災害時の孤立地域に関する情報収集・共有支援に関する研究	500,000	1,030,000	3,350,000	2,144,000	基準額(1,367,000円)+777,500円 （端数800円減額）
				②厳しい気候環境下における避難所の生活環境確保に関する研究		760,000			
				③厳しい気候環境下における救援要員の活動支援に関する研究		810,000			
				④災害時の外部給電車両の利活用モデル構築に関する研究		750,000			
				研究費計	12,000,000	16,879,000		12,300,000	
				予　備　費				1,200,000	
				管　理　費				6,500,000	
				合　計				20,000,000	

※本社助成金20,000,000円のうち、管理費6,500,000円、研究予備費1,200,000円を差し引いた12,360,000円を研究費とする。
※研究費12,360,000円を9部門で割った136万7千円を各部門の基準額とする。
※基準額を下回る申請（4部門）は、満額を助成する。
※基準額との差額分（3,110,000円）を4部門で割った額を基準額を上回る申請部門に追加助成する。

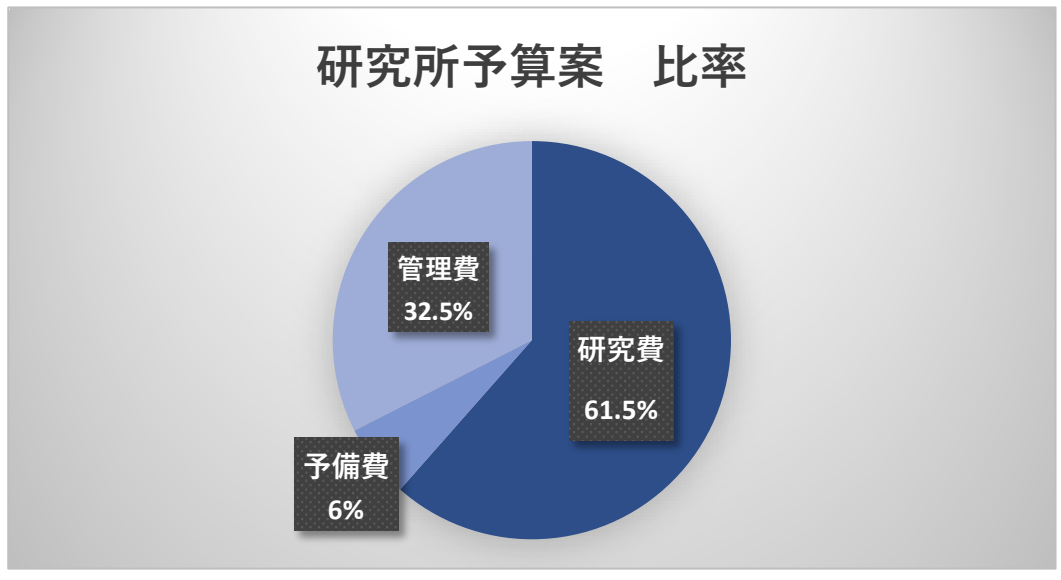
日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

令和4年度予算（案）

2022（令和4）年4月20日現在

No.	大項目	小項目	内訳	前年度予算	**今年度予算**		差異
1	研　究　費		9部門	11,000,000	**12,300,000**	研究費計 12,300,000	1,300,000
2	予　備　費			2,000,000	**1,200,000**	1,200,000	-800,000
3	管理費	報酬手数料	セミナー業務委託	2,000,000	**500,000**	管理費計 6,500,000	-1,500,000
4		印刷製本費	年報	720,000	**200,000**		-520,000
5		広報費	ホームページ維持、更新	500,000	**300,000**		-200,000
6		人件費	嘱託職員（4月～3月）	900,000	**4,790,000**		3,890,000
7		消耗品費	事務用品	300,000	**300,000**		0
8		通信費	電話、郵便、宅急便	500,000	**100,000**		-400,000
9		諸会費	学会年会費	0	**50,000**		50,000
10		旅費交通費	学会出張	300,000	**200,000**		-100,000
11		渉外費 会議費	事務局	100,000	**30,000**		-70,000
12		福利費 雑費	事務局	0	**30,000**		30,000
				18,320,000	**20,000,000**	20,000,000	1,680,000

※人件費：新たに嘱託職員（経理担当）の経費を一部追加した。
※旅費交通費：災害医学会等の出張旅費を追加した。



資料No. 4　　2022（令和4）年4月22日更新

2022（令和）4年度　災害救護研究所　連絡協議会・運営委員会日程

開催案　連絡協議会：年2回（5月、翌3月）　　運営委員会：年4回（4、8、11、翌2月）

本社理事会・代議員会と同日程なので、日程変更

連絡協議会				**第1回**								**第2回**
	日程			**令和4年5月20日(金)** **16：00～17:00**								**令和5年3月17日（金）** **16：00～17:00**
	議題			令和3年度事業・決算報告 令和4年度事業計画・予算の報告								令和4年度の事業報告 令和5年度事業計画・予算の承認
運営委員会		**第1回**				**第2回**		**第3回**		**第4回**		
	日程	**令和4年4月22日(金)** **16：00～17:00**				**令和4年8月26日(金)** **16：00～17:00**		**令和4年11月18日（金）** **16：00～17:00**		**令和5年2月17日（金）** **16：00～17:00**		
	議題	令和4年度部門別研究計画・予算の報告、研究員の承認				研究員の承認 ディスカッション		研究員の承認 ディスカッション		部門別研究活動報告 令和5年度研究計画・予算の承認		

埼玉県赤十字大会行事と同日程なので、日程変更予定

様式〇〇

2021 年度　災害救護研究所　活動報告

報告年月日 （西暦）	

部門名	
部門長氏名	
研究員氏名	

【活動報告】

2021 年度　活動計画
（例） 1.　部門における研究員の組織化 2.　今年度計画の策定 　1）〇〇 　2）〇〇
2021 年度　実施した活動
（注）今年度は、短文でも、ある程度の長文でも結構です。 どのような活動を実施したか、読み手に伝えたい内容を記載する。 以下赤字は（記入例）です。 1.　部門における研究員の組織化 　〇名の部門研究員を確定させ、役割分担を〇〇として活動を開始した。 2.　今年度計画の策定 　1）〇〇については、 　2）〇〇については、
2021 年度活動計画の最終評価、2022 年度への課題
（注）継続活動計画については、別途、次年度研究計画書をご提出いただきますので、 この報告においては、項目と概要のみ記載して頂ければ結構です。 総括・所感等もお書きいただいて結構です（必須ではありません）。

1.　部門における研究員の組織化 活動計画〇〇を遂行するために、〇〇を担える研究員〇名をさらに加えることを検討している/計画である。 2.　今年度計画 1）〇〇については、完了した。 2）〇〇のうち、△△については完了した。■■については継続的に実施する予定である。 3．新規計画として、●●を予定している。 （所感の例）今年度の活動は・・・。次年度は・・・。

【論文等】文献等記載方法は、別添「〇〇」に準拠してください。

専門学会誌への論文掲載（原著・総説・報告等）（査読の有無を明記）
（注）掲載論文別冊、コピー等を添付してください。
その他の記事掲載（総説、解説、コラム等を含む、基本的には査読無し記事）
（注）掲載記事別冊、コピーを添付してください。
著書、教科書等書籍
制作物、DVD 等教育教材等
（注）現物または、大型制作物は写真や必要時説明資料等を添付してください。
厚労省、文科省、総務省等省庁関連の研究・調査報告書等
学術集会、学会発表等
（注）発表抄録、PPT 等を添付してください。

【社会貢献活動】

関連学会等での活動
シンポジウム、セミナー等　教育・普及・啓発活動

その他

資料No.6

研究遂行に際しての情報提供

Ａ．科研に関して

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/(日本学術振興会)

Ｂ．研究倫理に関して

研究倫理審査 | 日本赤十字看護大学 (redcross.ac.jp)

災害救護研究所　学内部会より

１．科研の目的・性格

科研費の目的・性格　科研費は、人文学、社会科学から自然科学までの全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究費」であり、ピアレビュー（同業者（peer）が審査すること（review）で、科研費においては、学術研究の場で切磋琢磨し「知の創造」の最前線を知る研究者が審査、評価するシステム）による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成を行うものです。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/

科研費の日本学術振興会への移管　平成10年度までは、文部省（現文部科学省）においてすべての研究種目の公募・審査・交付業務が行われていましたが、平成11年度から日本学術振興会への移管を進めています。

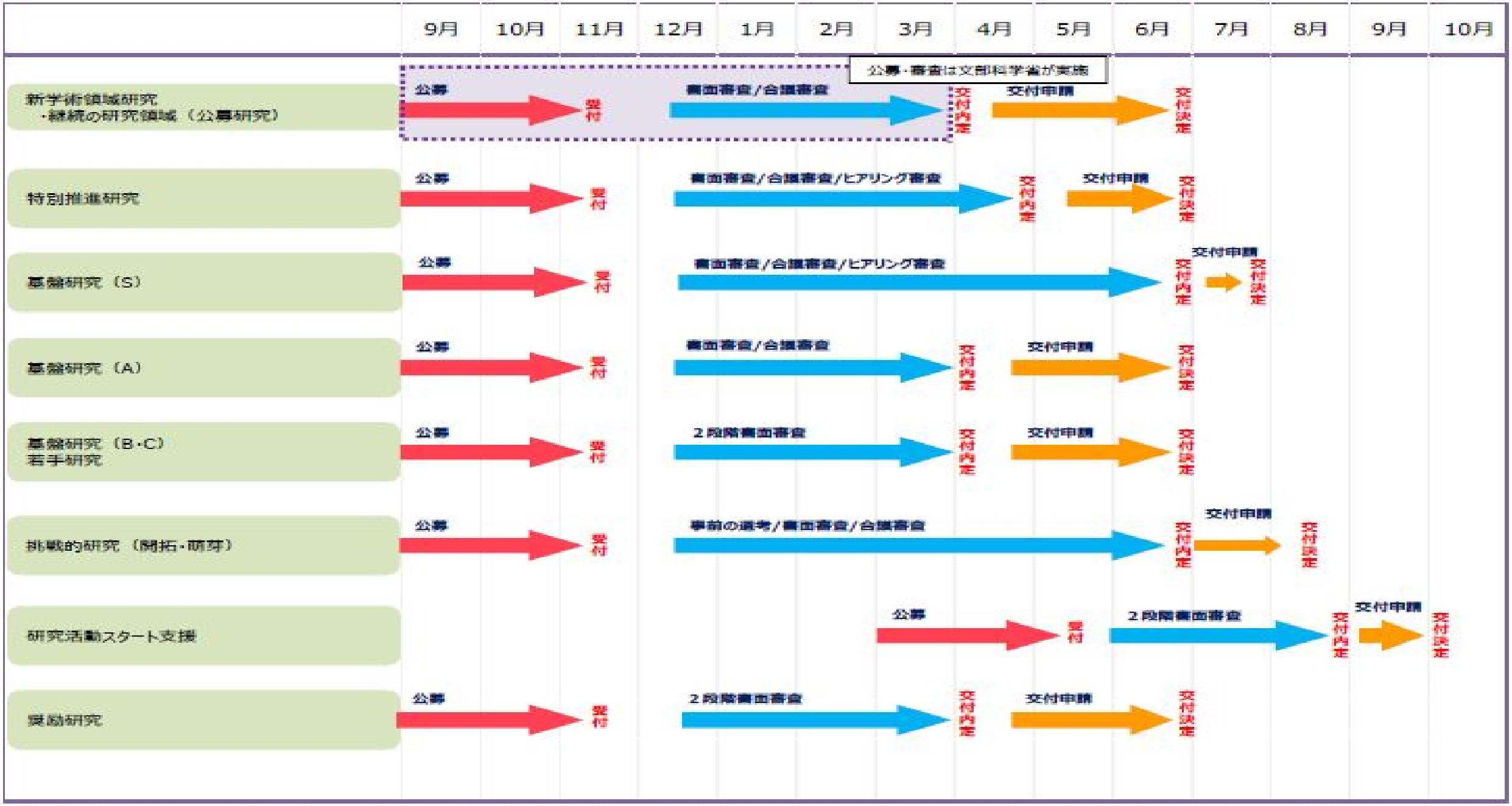
２．研究種目

研究種目	研究種目の目的・内容	補助金・基金の別	役割分担
科学研究費 Grants-in-Aid for Scientific Research			
特別推進研究 Grant-in-Aid for Specially Promoted Research	新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される一人又は比較的少人数の研究者で行う研究 （３～５年間（真に必要な場合は最長７年間） ２億円以上５億円まで（真に必要な場合は５億円を超える応募も可能））	補助金	振
新学術領域研究 （研究領域提案型） Grant-in-Aid for Scientific Research on Innovative Areas	多様な研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成、 設備の共用化等の取組を通じて発展させる（５年間 1領域単年度当たり 1,000万円～３億円程度を原則とする） 【令和２(2020)年度公募以降、継続研究領域の公募研究のみ公募】	補助金	文・振
学術変革領域研究 Grant-in-Aid for Transformative Research Areas	（Ａ）多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、 共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究（５年間 1研究領域単年度当たり 5,000万円以上３億円まで（真に必要な場合は３億円を超える応募も可能）） （Ｂ）次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループ（３～４グループ程度）が提案する研究領域において、より挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化につながる研究領域の創成を目指し、将来の学術変革領域研究（Ａ）への展開などが期待される研究（３年間 1研究領域単年度当たり 5,000万円以下）	補助金	文・振

２．研究種目　特別推進研究・基盤研究・挑戦的研究・若手研

特別推進研究	新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究であって、格段に優れた研究成果が期待される一人又は比較的少人数の研究者で行う研究（３～５年間（真に必要な場合は最長７年間）２億円以上５億円まで（真に必要な場合は５億円を超える応募も可能））
基盤研究（Ｓ）	一人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究 原則５年間　5,000万円以上 ２億円以下
基盤研究（A・B・C）	一人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究 （Ａ）３～５年間　2,000万円以上　5,000万円以下 （Ｂ）３～５年間　500万円以上　2,000万円以下 （Ｃ）３～５年間　500万円以下
挑戦的研究（開拓・萌芽）	一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究 なお、（萌芽）については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする （開拓）３～６年間　500万円以上　2,000万円以下 （萌芽）２～３年間　500万円以下
若手研究	博士の学位取得後８年未満の研究者（注１）が一人で行う研究 ２～５年間　500万円以下

3．スケジュール


9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
公募・審査は文部科学省が実施
新学術領域研究
・継続の研究領域（公募研究）
公募
受付
書面審査/合議審査
交付内定
交付申請
交付決定
特別推進研究
公募
受付
書面審査/合議審査/ヒアリング審査
交付内定
交付申請
交付決定
基盤研究（S）
公募
受付
書面審査/合議審査/ヒアリング審査
交付内定
交付申請
交付決定
基盤研究（A）
公募
受付
書面審査/合議審査
交付内定
交付申請
交付決定
基盤研究（B・C）
若手研究
公募
受付
２段階書面審査
交付内定
交付申請
交付決定
挑戦的研究（開拓・萌芽）
公募
受付
事前の選考/書面審査/合議審査
交付内定
交付申請
交付決定
研究活動スタート支援
公募
受付
２段階書面審査
交付内定
交付申請
交付決定
奨励研究
公募
受付
２段階書面審査
交付内定
交付申請
交付決定

４．申請までのタイムスケジュール

科研番号取得（５月）

・５月中に事務局で申請

・科研番号を連絡

計画書の作成・提出（５月から８月）

・研究計画書様式に即して計画立案

・研究計画書の確認・提出（大学科研担当事務局）

審査結果

２０２３．４月発表

5．人を対象とする研究に該当する場合

- 本学において「人を対象とする研究」に該当する研究を行う場合には、「人を対象とする 研究に関する倫理規程」（以下、「人倫理規程」という）の規定にしたがって、倫理審査委 員会での承認を要することがあります。
- また、「人を対象とする研究」に該当するものでも、必ずしも委員会への申請が必要にな るとは限りません。申請が必要かどうかの判断については、「審査不要の判断について」（P14）と「倫理委員会の審査要否に係るフローチャート」(P20)を参照してください。
- Microsoft Word - 人を対象とする研究に関する倫理審査の手引き_20190426.docx (waseda.jp)

６．審査不要の判断について

- 審査不要の判断について 人を対象とする研究のうち、以下の要件の1）～4）のいずれかに該当する場合は、本 学として倫理審査不要とします。研究責任者の責任のもとで研究を実施してください。 一方、学会等の外部機関からこの審査不要の判断がなされたことの証明が求められること があります。その証明を必要とする場合は、下記の Web サイトから様式11「倫理審査不 要の判断依頼書」をダウンロードの上、必要な添付資料を添えて、期日までに以下の提出 用アドレスに送信してください。

- https://waseda-research-portal.jp/research-ethics/irb/ 提出用アドレス：IRB@list.waseda.jp 申請期限は以下の Web サイトにてご確認下さい。https://www.waseda.jp/inst/ore/procedures/human/ ※なお、大学が本依頼書の提出を強制するものではありません。あくまでも、共同研究や 学会への論文投稿等で外部機関から本学の倫理審査委員会の審査結果が求められる場合 に、審査不要の判断依頼をご活用ください。【人を対象とする研究に関する倫理審査委員会 審査不要の判断の要件】以下の要件のいずれかに該当する研究は、倫理審査は不要です。

＜倫理審査不要の判断＞

- (1)既に匿名化されている情報(※1)(特定の個人を識別できないもの(※2)で、対応表 が作成されていない場合)のみを用いる研究・既に作成されている匿名加工情報または 非識別加工情報のみを用いる研究(※3)
- (2)本格的な研究開始前の(単独で公表されることのない)予備的な研究であり, 明確な仮 説検証などを行わず, 研究グループのメンバーを対象者にしたリスクが軽微な実験や調 査であって、研究責任者が対象者のリスクや威圧、個人情報保護などに適切に配慮して いる場合
- (3)細胞バンクや組織バンクなどから提供され、その取得において適切な手続きがとられ、 特定の個人を識別できず、対応表が作成されていない試料を用いた研究
- (4)以下のすべての条件を満たしている研究
- ① 対象者保護(手続きや威圧の問題など)に適切に配慮している。② 個人情報を取り扱わない(無記名調査等である)。③ データ収集を研究と直接
- 関係のない他の機関や会社等(例, 調査会社など)に依 頼していない。
- ④ 研究結果あるいは対象者保護に影響を及ぼす経済的利益関係がない。 ⑤ 映像, 音声のデータを収集していない。
- ⑥ 社会的弱者になりやすい特徴を有する集団(例, いじめられたことのある者, 不 15 登校児障害者やその家族, 精神疾患を有する者, など)を対
- 象としていない
- ⑦ 研究全体を通じて, 介入(心理的介入を含む)が含まれない。 ⑧ 質問紙調査, 実験提示刺激等において, すべての質問内容や項目に, 社会的
- 生活 で経験したり日常会話の内容に出てきたりする範囲を超えているもの(例, い じめられた経験があるか, 最 近の性欲はどうか, 死にたいと思
- ったことがあるか, など)が含まれていない。
- ⑨ ディセプションの手続き(研究目的等の虚偽の説明を用いる手続き)が含まれて いない。

５．倫理審査に関する手続き

研究倫理教育

- e-ラニングプログラム受講
- 一般財団法人（APRIN）提供　研究倫理教育e-ラーニング
- ３年間有効

大学研究倫理審査委員会提出

研究倫理審査委員会の運営内規（redcross.ac.jp）
https://www.redcross.ac.jp/research/research-ethics/

倫理審査委員会の承認

- 条件付き承認の場合、３週間以内に提出

研究施設の倫理審査委員会

- 大学の承認があれば、施設の倫理審査委員会は必要ないばあいもある
- 施設の判断

6．2022年度（令和4）年度　研究倫理審査申請日程

- 2022（令和4）年度　研究倫理審査申請日程
- ４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月 １０月 １１月 １２月 １月 ２月 ３月 翌年４月
- 申請〆切

3/23(水) 4/26(火) 5/31(火) 6/28(火) 7/26(火) 8/23(火) 9/20(火) 11/21(月) 12/20(火) 1/24(火) 2/28（火） 3/24(金)

- 審査日 4/14(木) 5/19(木) 6/16(木) 7/14(木) 8/18(木) 9/8(木) 10/6(木) 12/8(木) 1/12(木) 2/16(木)【仮】3/16(木)【仮】4/13(木)【仮】
- 日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会
- 【申請書類について】提 出 先　：事務局総務課窓口 締 切 時 刻　：１７：００ ※ 書類の不備や記入漏れ等で差し戻しがある場合も多くありますので、期日の数日前には提出できるよう、余裕をもって準備を進めるようにしてください。
- 結 果 発 表　：審査日からおおよそ１週間程度で、審査結果が通知されます（※現在はメールにて結果を通知しています）

６．本学の不正防止に関わる関係規定

- 不正防止委員会規定
- 研究活動上の不正行為防止に関する規定
- 研究データの保存・開示に関する規定
- 公的研究費運営・管理規定
- 公的研究費の不正に関わる調査等に関する取扱い規定

2022/4/22

資料No. 7

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所
2022(令和3) 年度　決算(案)

収入　　年間予算として本社から配分　　2,000万円

支出　研究所運用に関する支出

項　目	内　訳	予　算	決　算
研究費	災害救護部門	1,500,000	196,020
	国際医療救援部門・国際救援部門	5,000,000	5,485,040
	災害看護部門	1,500,000	184,330
	防災減災部門	500,000	0
	心理社会的支援部門	2,500,000	106,600
	感染症部門	500,000	0
	災害ボランティア部門	500,000	0
	災害救援技術部門	500,000	369,291
運用費	キックオフセミナー、派遣職員人件費、学会参加費・旅費、その他事務経費	3,820,000	5,648,723
		16,320,000	11,990,004

収入　　年間予算として本社から配分　　1,000万円

支出　初度調弁費含む研究所整備に関わる支出

	項　目	予　算	決　算
備品・消耗品費	ノートパソコン（部門長、事務局）、統計ソフト（SPSS）、ウィルスバスター、プリンタ、大型プリンタ、机・椅子、ミーティングテーブル、ロッカー、文具等	8,700,000	8,466,855
報酬手数料	ホームページ制作、パンフレット印刷、屋外看板製作費用	1,300,000	1,528,670
		10,000,000	9,995,525

資料No.８

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、研究協力員

略歴・業績書

【部門・所属・職位・氏名等】	
部門：防災減災部門	
所属：日本赤十字社愛知県支部 職位：社会活動推進課長兼青少年赤十字課長 氏名：菊池勇人（キクチ　ユウト） 生年月日：　昭和４７年８月１７日（４９歳）	
【資格・取得学位・職歴】	
①　資格等（取得年月） 医師　看護師　保健師　臨床心理士　（　　） ②　取得学位（分野） 学士　修士　博士（経営学）	③　主な職歴 平成　８年４月～平成 15 年３月　名古屋第二赤十字病院 平成 15 年４月～平成 30 年３月　日本赤十字社愛知県支部 平成 30 年４月～令和２年 10 月　日本赤十字社　本社 令和２年 11 月～　現在に至る　日本赤十字社愛知県支部
【国際・災害関連活動歴】	**【社会的活動歴】**
平成16年10月　新潟県中越地震（愛知県支部初動要員） 平成23年　3月　東日本大震災（同上） 平成28年　4月　熊本地震（同上） 平成30年　6月　大阪府北部地震（本社初動要員） 平成30年　7月　西日本豪雨（本社初動要員） 平成30年　9月　北海道胆振東部地震（本社初動要員） 令和　2年　7月　令和２年７月豪雨（内閣府調査チーム同行）	・日本赤十字社防災教育事業プログラム検討委員（平成26年度） ・日本赤十字社防災教育事業技術委員（平成27年度～29年度） ・日本赤十字社防災教育事業推進委員会委員（平成28年度・29年度・令和３年度） ・日本赤十字社救護業務委員会支部災対本部体制等検討部会委員（平成29年度） ・日本赤十字社講習推進委員会委員（令和３年度）
【研究業績】	
①　単著、共著の論文数： 単著： 共著： ②　学会発表の件数： 単：４件 共：８件	③　著作の種類、数等： 単著： 共著：
【総合評価】 以上より、災害救護研究所の研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、または研究協力員として適していると判定する	

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、研究協力員

略歴・業績書

【部門・所属・職位・氏名等】

部門：防災減災部門

所属：日本赤十字社

職位：事業局救護・福祉部健康安全課長

氏名：武久　伸輔（タケヒサ　シンスケ）

生年月日：　昭和　43年　２月　24日（　54歳）

【資格・取得学位・職歴】

① 資格等（取得年月）

医師　看護師　保健師　臨床心理士　（　　）

② 取得学位（分野）

学士　修士　博士（　　学）

③ 主な職歴

昭和 61 年 4 月　日本赤十字社岡山県支部　入社

平成 8 年 4 月　岡山県赤十字血液センター　勤務

平成 13 年 6 月　岡山県支部　勤務

平成 21 年 4 月　岡山赤十字病院　勤務

平成 24 年 4 月　岡山県支部

令和 2 年 4 月　日本赤十字社　本社　勤務

【国際・災害関連活動歴】

平成 7 年　阪神淡路大震災救護活動

平成16年　新潟中越地震救護活動

平成23年　東日本大震災救護活動

平成27年　日本赤十字社　防災教育事業推進委員

平成28年　赤十字防災教育事業指導者資格取得

平成30年　西日本豪雨災害救護活動

【社会的活動歴】

平成元年　赤十字水上安全法指導員

平成2年　赤十字救急法指導員

平成15年　赤十字水上安全法講師

平成16年　赤十字救急法講師

平成21年　日本 DMAT 隊員

【研究業績】

① 単著、共著の論文数：

単著：

共著：

② 学会発表の件数：　5件

単：2件

共：3件

③ 著作の種類、数等：

単著：

共著：

【総合評価】

以上より、災害救護研究所の研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、または研究協力員として適していると判定する

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所

研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、研究協力員

略歴・業績書

【部門・所属・職位・氏名等】	
部門：災害救援技術部門	
所属：元武蔵野赤十字病院　外科部長 職位：客員研究員 氏名：栗栖　茜　（クリス　アカネ） 生年月日：昭和　１８　年　　６月　１５　日（　　７８　歳）	
【資格・取得学位・職歴】	
①　資格等（取得年月） ○医師　看護師　保健師　臨床心理士 （　昭和45年9月　） ②　取得学位（分野） 学士　修士　○博士（医　学）博士	③　主な職歴 昭和55年9月――平成8年3月 武蔵野赤十字病院　外科(外科部長)
【国際・災害関連活動歴】	**【社会的活動歴】**
武蔵野赤十病院にて約8年、防災委員長をつとめ、大地震等の災害がおきたときの病院の対応力の向上に努めた。また、災害訓練を形式的な訓練からバーチャル・レアリティのある訓練へと転換させた。この訓練方式の転換は有効であったと考えている。	
【研究業績】	
①　単著、共著の論文数： 単著： 共著：3 ②　学会発表の件数： 単：0 共：0	③　著作の種類、数等： 単著： 共著： 論文タイトル等は ○Potential technique for improving the survival of victims of tsunamis

	Akane Kurisu, Hisami Suga, Zdenek Prochazka, Kojiro Suzuki, Kazumasa Oguri, Tetsunori Inoue Research Article	published 23 May 2018 PLOS ONE https://doi.org/10.1371/journal.pone.0197498 ◯ Development of a coupled human fluid numerical model for the evaluation of tsunami drowning hazards, Daiki AJIMA, Takashi NAKAMURA, Tatsuto ARAKI, Tetsunori INOUE and **Akane KURISU**, *Journal of Biomechanical Science and Engineering*, Vol.14, pp. 18-000321, 2019. ◯Large-scale experiment to assess the collision impact force from a tsunami wave on a drifting castaway Tetsunori Inoue, Kazumasa Oguri, Hisami Suga, Kojiro Suzuki, Zdenek Prochazka, Takashi Nakamura, **Akane Kurisu** Research Article	published 25 Feb 2021 PLOS ONE https://doi.org/10.1371/journal.pone.0247436

【総合評価】

以上より、災害救護研究所の研究員（部門長・専任研究員・客員研究員）、または研究協力員として適していると判定する

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所「(仮称)情報企画連携室」について (案)

【目的】
研究所活動に関する情報収集、評価、提案

【目標】
・災害救護を俯瞰して風を読む
・行政の施策を支援することで資金調達を図る
・組織横断的研究の推進
・教育活動、啓蒙活動、広報活動を推進する

【活動内容】
・ 災害救護に関する情報収集、評価
とりわけ組織横断的な研究
行政、保健・衛生・福祉、医療　国内、国際
例) 日本版 CERT(Community Emergency Response Team)構想
⇔ 内閣府、厚労省
医療系大学の卒前・卒後災害救護教育
⇔ 東北大学との共同事業
ボランティア教育への協力　避難所運営研修、コーディネーター研修等
⇔ JVOAD
DHEAT 研修会への参画
⇔ DHEAT
地域包括 BCP
⇔ 日赤の支部、病院、ボランティア組織
ウクライナ支援

・ 部門との連携
部門横断的検討事案の調整
タスクフォース、クロスファンクショナルチーム、プロジェクトチーム等
・ 情報提供先
所長、副所長、運営委員会、事務局
・ 情報ツールの検討　広報も含めて
研究所見える化プロジェクト　活動内容等を研究所内・外に周知していく

【要員】

室長　　丸山嘉一（日赤医療センター）

アドバイザー　田中康夫（本社）　　軽部真和（本社）

情報部　：情報収集　評価

外部委員　近藤祐史（厚労省）　高桑大介（日本公衆衛生協会）

内部委員　安江　一（本社）　佐藤展章（本社）

企画部　連携部　調整部　：評価、分析、対応検討

外部委員　市川　学（芝浦工業大学）

内部委員　白土直樹（本社）

鷺坂彰吾（日赤医療センター）

事務局　　（看護大学）

新たな研究所員

近藤祐史（厚労省）

鷺坂彰吾（日赤医療センター）

部門カンファレンス について

背景

- 運営委員会は年 3 回開催→その間を埋める連絡会が必要
- 堅苦しい「会議」ではなく、気軽な「お茶会」、「意見交換会」が望まれる

目的

- 部門間の連携を図る場
- 「隣は何をする人ぞ」を知る
- 研究所内の「顔の見える関係」作りを目指す

運営

- 会のお知らせ、進行、会議録作成等は各部門に任せる→事務局の負担軽減
- 基本リモート開催
- 月一回程度の開催
- 座長は各部門で持ち回り

内容

- 部門プロジェクトの進捗状況、困りごと紹介
- 研究する上での How to
  例） 科研費の取り方講座
  論文投稿のノウハウ
- 部門・機能横断的プロジェクトの検討、調整
- 新規プロジェクトの紹介　等

参加者

研究所員　部門長、副部門長等が自由に参加できる
情報企画連携室
事務局

日本赤十字看護大学附属災害救護研究所　組織図

2022（令和4）年4月22日　現在

資料№１０-２

学　長

合同経営会議

合同教授会

研究所長　富田　博樹

副所長　井村真澄

顧　問

運 営 委 員 会

研究所長
副 所 長
各部門長
事務局長
その他所長が指名する者

学 内 部 会

守田学長、富田所長、
井村副所長、関口事務局長
丸山嘉一、桑原幸一、
渋澤　毅、小暮カオル、
大江　薫

事 務 局

渋澤　毅、桑原幸一
小暮カオル、大江　薫

連絡協議会

学　長　　守田美奈子
研究所長　富田博樹
研究所副所長　井村真澄
大学事務局長　関口　忍
学園常務理事　宮原保之
学園　同　　庄野泰乃
学園　同　　鈴木一寿
日赤本社　飯嶋喜史
日赤本社　軽部真和
日赤本社　田中康夫
日赤本社　永福勝之
その他学長が指名する者

（仮称）情報企画連携室

日赤本社・支部職員、
行政職員、内閣府・厚労省出向職員、
災害医療コーディネーター、
医師　等

（仮称）部門カンファレンス

部門長、副部門長、
(仮称)情報企画連携室

災害救護部門
(13)

部門長　**中野　実**
（副部門長）丸山　嘉一
（副部門長）高階謙一郎
専任研究員　稲田　眞治
専任研究員　岡本　貴大
専任研究員　中村　光伸
専任研究員　田口　茂正
専任研究員　芝田　里花
専任研究員　髙寺由美子
専任研究員　上門　充
専任研究員　中田　正明
専任研究員　魚住　拓也
客員研究員　高桑　大介

国際医療救援部門
(3)

部門長　**中出　雅治**
（副部門長）杉本　憲治
専任研究員　伊藤　明子

災害看護部門
(5)

部門長　**内木　美恵**
（副部門長）
専任研究員　尾山とし子
専任研究員　森岡　　薫
専任研究員　池田　載子
専任研究員　小林　洋子

防災減災部門
(3)

部門長　**白土　直樹**
（副部門長）
専任研究員　菊池勇人
専任研究員　武久伸輔

国際救援部門
(1)

部門長　**佐藤　展章**
（副部門長）
専任研究員
客員研究員

心理社会的支援部門
(6)

部門長　**森光　玲雄**
（副部門長）
専任研究員　中井　茉里
専任研究員　宮本　教子
専任研究員　長尾佳世子
専任研究員　大山　寧寧
客員研究員　赤坂　美幸

感染症部門
(2)

部門長　**古宮　伸洋**
（副部門長）
専任研究員　小林謙一郎
専任研究員
客員研究員

災害ボランティア部門
(2)

部門長　**安江　一**
（副部門長）
専任研究員　土居　正明
客員研究員

災害救援技術部門
(6)

部門長　**曽篠　恭裕**
（副部門長）
専任研究員　根本　昌宏
専任研究員　津田　直人
専任研究員　吉川　靖之
客員研究員　市川　学
客員研究員　栗栖　茜

予定：高齢者生活支援（地域包括ケア）部門

部門長
（副部門長）
専任研究員
客員研究員
（研究協力員）